

平成 25 年 6 月 13 日

独立行政法人 都市再生機構理事長 上西 郁夫 殿
千葉県知事 森田健作 殿 企業庁長 吉田雅一 殿
印西市長 板倉正直 殿

千葉県生物学会会長 西田治文

印西そうふけっぱら（千葉ニュータウン 21 住区）の
生物多様性保全とそれを活かしたまちづくりに向けた
要望書

千葉県生物学会は、昭和 23 年（1948）2 月、初代沼田眞会長による結成以来、半世紀以上に渡って千葉県の生物と自然についての調査研究や教育普及に尽力して参りました。近年では時代の要請を受けて、県内の自然保護及び生物多様性保全についても積極的に研究と提言を行なっており、地域の方々をはじめ県の環境行政や教育委員会とも協働しております。

千葉県は、房総沖で黒潮暖流と親潮寒流とが出会い、また陸域では暖温帯の常緑広葉樹林（照葉樹林）と冷温帯の落葉広葉樹林（夏緑樹林）の移行帯にあたる、変化に富んだ気候に恵まれた地域です。さらに、利根川に囲まれた低湿地と下総台地、房総丘陵と東京湾沿いの内湾という変化に富んだ地形・地理によって、多様かつ固有な生物相が育まれています。このような恵まれた環境は、首都圏有数の第一次産業が成立する基盤ともなっており、私たちの祖先は数万年前からこの恩恵を享受してきました。現在の里山や里海は、まさに県内の豊かな生物多様性が作り出す安定した環境に支えられています。

現在、当学会や全国の研究者及びその所属学協会、地域市民の方々が注目している亀成川源流部の印西そうふけっぱら（草深原：千葉ニュータウン 21 住区）は、下総台地と台地上の宙水の泉に端を發し、それを刻む谷津とで構成されるこの地域特有の地形条件が残され、そこにキツネや〇〇〇〇、ゲンジボタル、〇〇〇〇など、多くの絶滅危惧種を含むきわめて豊かな生物多様性が残されていることがわかってきました。まさに生物多様性豊かな台地の里山ですが、このような環境は、現在では県内でも稀有なものになっています。

この生物多様性の豊かさ及び自然環境の重要性については、日本自然保護協会及び亀成川を愛する会等からの都市再生機構・千葉県・印西市等へのたび重なる要望書の資料からも理解できます。さらに最近では、地域の自然と人とのかかわりから生まれた「そうふけっぱらのきつね」民話や江戸時代のこの地域に特有な「牧の文化景観」を示す絵画・浮世絵等の文化資産も発見され、自然及び文化の両面からもこの地区の重要性が一層明らかになってきました。

首都東京と成田国際空港にはさまれた千葉県印西市で、このように奇跡的に残された印西そうふけっぱらの自然環境及び文化資産は、印西市民はもとより千葉県民、また日本の

現在及び将来にわたる大きな宝であります。地域の生物多様性は、地域固有の歴史です。県内ではもはや稀有となった、そうふけっばらのような環境は、県民、そして国民としてこれを守り後世に伝える義務があります。また、当該地は当初宅地造成を目的に確保されましたが、その当時と現在とでは、地域環境と生物多様性保全に対する社会的情勢は大きく異なり、我国においても生物多様性国家戦略が制定されるなど、時代に即した柔軟な対応が求められております。また、長期的にみれば、当該地の保全は周辺住居域の相対的価値を高めるだけでなく、地域の教育・文化・経済に資するものも大きいと予想されます。関係各位におかれましては以下に呈示いたしますような特段のご配慮をもって当該地環境の保護・保全また持続可能な利活用をお願い申し上げます。

独立行政法人 都市再生機構理事長 上西 郁夫 殿

UR都市機構発行の「平成22年版環境報告書 まち・住まいと環境」には「生物多様性とまちづくり」が特集されています。そこにはUR都市機構が、地域の方々と一体になって展開した「オオタカの生息環境の改善による里山の保全・再生」「都市部におけるピオトープネットワーク」等の多くの素晴らしい取組が紹介されています。

私たちは、都市再生機構の組織体としての今後の事情も理解しておりますが、その素晴らしいまちづくりの理念と経験は将来にも引き継がれることを切に希望します。その理念を基として、印西そうふけっばらの貴重な自然環境・文化資産が壊されることなく保全され、さらにはそれを活かした魅力あるまちづくりが展開されますようお願い致します。また、当学会はそのような将来に資する活動については今後の協力を惜しみません。

千葉県知事 森田健作 殿 企業庁長 吉田雅一 殿

千葉県はその豊かな自然環境をふまえ、平成元年には、世界的にも高く評価されている自然誌博物館「千葉県立中央博物館」の設置や、平成22年の国の生物多様性基本法に先立ち地方公共団体では全国ではじめての地域戦略「生物多様性ちば県戦略」の策定及び「千葉県生物多様性センター」の設置等、自然保護・生物多様性保全の政策展開においてはその先進性と質の高さが全国から注目されています。豊かな国民性の基盤は豊かな自然環境であり、豊かな生物多様性の恩恵を受けて我国の青少年もかつては育ってきました。千葉県の青少年にそうふけっばらのいきものを、物語りなどの文化と共に伝えることは、今しかできません。このような状況をふまえ、印西そうふけっばらの自然及び文化資産の調査、そしてその保護・保全について早急に対策を講じていただくようお願い致します。

なお「生物多様性ちば県戦略」では、千葉ニュータウンなど大都市周辺の里山環境の保全・再生の緊急の取組が示されています。このような取組については、平成23年に施行された「生物多様性地域連携促進法」に基づく住民と地方公共団体とが一体となったの対応が全国各地で活発化してきています。さらにこの法に盛り込まれている「地域連携保全活動支援センター」としては、千葉県生物多様性センターが、全国第一号と聞いております。印西そうふけっばらの保護・保全についても、その役割である、関係者間の連携及び協力のあっせんや必要な情報提供及び助言についてよろしくお願い致します。なお千葉県生物学会としてもその役割については全面的にバックアップさせていただく所存です。

印西市長 板倉正直 殿

貴重な自然環境・文化資産が明らかにされつつある印西そうふけっばらの地域は、地元印西市にとっては、まちづくりや教育、観光等にきわめて重要な環境・資産であります。したがってこれを守り活かす対策については地元の地方公共団体として、地域の方々と一体になった取組が期待されます。「印西市総合計画」では「ひと まち 自然 笑顔が輝く いんざい」を目指し「市民と行政がともに歩み健全で自立したまちをつくる」が基本目標の一つとして掲げられています。また「印西市緑の基本計画」では、その五本柱のなかに「里山と緑の歴史を守る」「水辺を保全・修復し活用する」という素晴らしい方向性が示されています。

現在の土地管理母体である独立行政法人都市再生機構は、組織体としての継続については課題を抱えていると承っています。このような状況下で、地元公共団体である印西市の積極的かつ具体的な取組が重要になっています。是非、地域のまちづくりは地域が担う原則において、地元公共団体としての印西市が、全国の模範となる次世代型地域環境行政を推進されますよう、切望いたします。